

厚生連

KOUSEIREN

学校検尿 — 尿糖検査について —

はじめに

現在、全国規模で学校検尿の必須項目として尿糖検査が実施されています。

その目的は、糖尿病を早期に発見し治療することによって、糖尿病による網膜症、腎症および神経障害などの慢性合併症を予防し進展を阻止することにあります。

埼玉県では、県医師会、学校医会のもとに糖尿病管理委員会を組織しています。

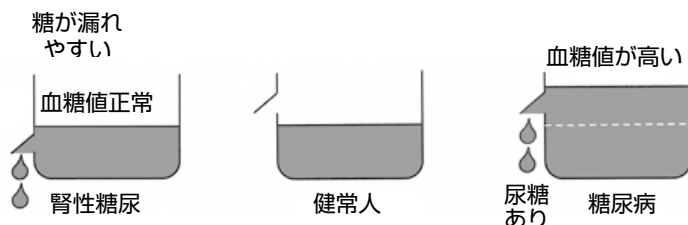
糖尿病管理委員会は、埼玉県公立学校の尿糖陽性者の現状を把握し、学校尿糖検尿システムをより

有効にするための活動を行っています。

尿糖は糖尿病？

血糖（血液中の糖）が正常でも、腎臓の機能によって糖が尿中にもれやすい人がいます。これを腎性糖尿といいます。その多くの人は、病気ではありません。つまり尿糖検査が陽性でも、すぐに糖尿病と判断するのは誤りです。重要なことは、尿糖が陽性であった場合に糖尿病か否か検査を行うことです。糖尿病と腎性糖尿を区別するため、採血を行い空腹時の血糖、ヘモグロビンA1Cを測定します。

■糖尿病と腎性糖尿の比較



■小児の糖尿病の種類と特徴

	1型糖尿病	2型糖尿病
体格	痩せ型が多い	肥満気味
発症経過	急激	緩徐
昏睡	頻度が多い	まれ
家族歴	まれ	頻度が多い
治療	インスリン注射が治療の中心	食事・運動療法必要に応じて薬物療法
頻度	10~15歳に多い	中学・高校生・成人と年齢が高くなるほど多い

小児の糖尿病

小児の糖尿病には、主に1型糖尿病と2型糖尿病の2つの病型があります。1型は、食事療法、運動療法、薬物療法、特にインスリン注射が必要となるものです。2型は、食事療法、運動療法が中心となる（時にインスリン注射が必要となります）病態です。学校検尿において無症状で発見される病気の大部分は2型糖尿病です。1型糖尿病もみつかりますが、少数

さらに糖負荷試験など詳しい検査を行う場合があります。

糖尿病と診断された場合には、適切な治療に向けてどのような病型の糖尿病かを決定することが大切となります。

まず受診を

糖尿病管理委員会の調査では、尿糖が陽性になっても、実際に医療機関を受診される方が半分にも満たないと考えられています。尿糖が陽性であった場合は、糖尿病か否かを診断するために、必ず早期にかかりつけ医など、医療機関を受診することが大切です。

熊谷総合病院

小児科医 星野 正也